

-----  
日本労働社会学会 通信 第22期第3号 (修正版)  
2010年8月26日 (木)  
-----

目次

1. 大会シンポジウムへ向けた研究会 (プレシンポ) の開催
2. 第22期第2回研究例会報告
3. 研究例会研究報告募集について
4. 会員異動

-----  
日本労働社会学会事務局 (第22期、2010年5月28日以降)  
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学経済学部  
兵頭 淳史 (ひょうどう・あつし)  
TEL: 044-911-1047 FAX: 044-911-0467 E-mail: [hyodo@isc.senshu-u.ac.jp](mailto:hyodo@isc.senshu-u.ac.jp)  
学会 HP: <http://www.jals.jp>  
-----

★会費納入★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】口座番号：00150-1-85076 加入者名：日本労働社会学会  
年会費 学生・院生会員：6,000円 一般会員：10,000円  
会費減免制度については、下記 URL をご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

★連絡先・所属変更★

連絡先や所属、メールアドレスを変更された方は、ただちに事務局宛へ連絡をください。大切な学会サービスを受けられなくなる可能性があります。

\*\*\*\*\*

1. 大会シンポジウムに向けた研究会 (プレシンポ) の開催

大会シンポジウムに向けた研究会 (プレシンポ) がつぎの要領で開催されます。ご関心のある方はご参加ください。

日時：2010年9月4日 (土) 午後3時より

会場：専修大学神田校舎7号館6階761教室

[http://www.senshu-u.ac.jp/univguide/campus\\_info/kanda\\_campus/index.html](http://www.senshu-u.ac.jp/univguide/campus_info/kanda_campus/index.html)

テーマ：「新しい公共」における労働とサービス

第1報告 公務労働の特質と公務改革下の変質—公共性の観点から—

松尾孝一（青山学院大学）

第2報告 NPO が担う「公共」とその「労働」

櫻井純理（大阪地方自治研究センター）

第3報告 公共セクターと女性—福島県北の保育政策を事例に

萩原久美子（生活経済政策研究所）

\*\*\*\*\*

## 2. 第22期第2回研究例会報告

第2回研究例会は7月3日青山学院大学で開催されました。今回は《文献研究》として中村真人先生（東京女子大学）の『仕事の再構築と労使関係：世紀転換点の日本と精密機械企業』を取りあげ、中村先生にご報告をお願いしました。大学院生等の参加者も多く、報告と活発な質疑が行われ、3時過ぎから2時間あまりの例会が盛況のうちに行われました。

以下、報告者中村先生にまとめていただいた研究会要旨を掲載いたします。

中村真人（2009）『仕事の再構築と労使関係：世紀転換点の日本と精密機械企業』御茶の水書房。

### 1. 研究と執筆の経過

本書に対しては、すでに高橋祐吉氏が丁寧な書評を執筆してくださっている（高橋 2010）。また本年度10月に開催される社会政策学会大会の書評分科会で取りあげられる予定である。以下は、7月3日の労働社会学会例会報告について、報告後の質疑内容も踏まえて報告者として総括した文章である。

本書は、著者が大学院博士課程在学中から20年ほどの間、続けてきた研究の成果をとりまとめたものである。はじめは、初出の論文を活かしていこうと思ったが、執筆後に加わった新しい発見が少なからずあって、結果としてかなりの部分を新たに書き下ろした。

### 2. 本書の概観

はじめに、「企業社会の再編成と労使関係の転換」として、1980年代から話題

になり 1990 年代には顕著になった「仕事の再構築」という現象と労使関係の変動について論じた。つづいて、日本では 1980 年代末から始まり 1990 年代前半に堅調に進んだ労働時間の短縮と、同時進行した労働時間柔軟化について考察した。特に、政労使三者合意による労働時間短縮を推進する社会政策に注目している。さらに次の章では、職業的ストレスと職場メンタルヘルスについて検討した。

第 4 章の「転換期の労使関係と企業別労働組合—長期雇用・生活給と労働者世界のゆくえ—」は論述の分量がもっとも多い。精密機械産業に属する世界的な大企業に組織された労働組合を対象として事例研究をおこなっている。引き続き、同じ会社で盛んになった QC サークル活動を取りあげて、職場小集団活動と労働スタイルについて考察した。

続く二つの章では、精密機械産業と電子機器産業に事例を求めて、企業集団が国内から海外へと拡大する様子と、各製造拠点における仕事の変化を追跡した。

### 3. 雇用・労働と労使関係をめぐる論点

#### 3-1 雇用慣行の変化など

「仕事の再構築」restructuring of work とは、個人業績本位の報酬制度、労働時間制度の柔軟化と多様化、非典型雇用の増大など、工業化をとげた諸国に顕著な雇用と労働条件をめぐる変化をいう。通俗的な議論のなかでは、「大企業で終身雇用が崩壊した。」との主張がなされている。しかし、現実には、大企業において高度な管理、企画、開発などに携わる部分は長期雇用のもとで人的資源開発の対象となっている。他方、定型的業務、支援的業務に携わる部分では、労働市場を支える新たな制度整備や業務支援サービスの発展のなかで階層としての分化が生じている。こうした現実を学問的に検討する必要を覚えさせられる。

#### 3-2 日本の労働組合について

日本の大企業における企業別組合について、利害代表の機能を事実にもとづいて明らかにすることが重要である。本研究では、高度技術を応用して国際的に展開している企業において労働組合機能が発揮されている事例を対象として、組合機能のあり方についてデータにもとづいて検討することができた。

#### 3-3 職場小集団活動について

職場小集団活動における、経営者の指導性、労働者の自主性についてはこれまでも研究が行われてきた。本研究では時計産業における事例を取りあげて、トップダウンの再教育プログラムと判断するとともに、労働者の受け止め方の実態を記述している。

#### 3-4 日本の製造業による海外生産の拡大

海外生産の拡大が、日本の製造業の産業基盤を衰退させるという主張が有力である。しかし事実はそれほど単純ではない。企業グループの国内から海外への展

開と、（特に企業グループ内での）分業構造の変動との関わりについて、国際競争力のある先端技術産業である電子機器製造業と精密機械産業を対象として検証した。そのなかで、海外に移転される業務と移転できない業務とを識別することの必要性と、日本国内での業務の高度化が重要な事実であることを指摘した。

#### 4. 研究展開の可能性

##### 4-1 仕事の再構築

工業化をとげた社会における「仕事の再構築」という現象の内実について、ポジティブな像を描く作業が求められている。1990年代に提示され現在も展開されているOECDの雇用戦略は、労働市場の機能を高めることによって雇用の拡大と安定を構想している。EUによる社会経済モデルの構想は、社会対話による利害調整を通じて、貧困と社会的排除を克服しようとしている。こうした政策構想の正確な姿と、その基礎にある諸事実を解明しなければならない。

##### 4-2 アジアの人的資源と知識社会の産業・労働

現在、日本企業による海外生産の展開と東アジア・東南アジアの工業化についての現地調査を進めている。今後は、それと並行して、既に工業化を達成した社会、知識社会における産業と労働についての社会学的研究が必要である。

具体的には、製造業におけるイノベーションを支える技術労働の実態、また流通、情報通信、資源・エネルギーなどの分野における開発や投資活動を支える労働と人的資源管理の展開が研究課題である。

##### 4-3 産業と労働の社会学

産業と労働の分野では、社会学以外の方法論に依拠する研究者との交流と協力は大変に実りの多い実践である。他方で、社会学の専門家としては、社会学原理論や社会学方法論との関わりを明らかにして、社会学史の古典をも振り返りながら、客観的認識と論理的思考を構築していく必要を感じている。

#### [文献]

中村真人（2009）『仕事の再構築と労使関係：世紀転換点の日本と精密機械企業』御茶の水書房。

高橋祐吉（2010）「書評と紹介：中村真人著『仕事の再構築と労使関係』」（『大原社会問題研究所雑誌』第621号）。

\*\*\*\*\*

#### 3. 研究例会研究報告募集について

次回第3回研究例会(9月4日予定)は、大会シンポジウム準備のための研究会にあてますので、一般研究報告の募集はいたしません。

一般研究報告が可能な研究例会は第4回研究例会(12月4日予定)となります。この報告者募集については10月ころ「学会通信」にてお知らせしますので、発表を予定される方はご注意ください。

\*\*\*\*\*

#### 4. 会員異動

##### ①入会

山口 壘 (立教大学大学院社会学研究科・院生)

研究テーマ：就業・雇用形態の多様化とキャリア

—仕事意識 SOHO や独立請負業者を事例として

崔海燕 (一橋大学大学院社会学研究科・院生)

研究テーマ：パートの歴史研究

中山 嘉 (金沢大学大学院環境研究科・院生)

研究テーマ：労使関係、非正規雇用

大野 剛志 (旭川大学保健福祉学部)

研究テーマ：農民の主体形成と地域活性化

—新規参入者による営農改革の実践

濱田 英次 (大阪市立大学大学院創造都市研究科・院生)

研究テーマ：労働経済分野・中国進出日系企業の労使関係

藤崎 朋子 (一橋大学大学院社会学研究科・院生)

研究テーマ：理容業・美容業を題材に独立自営層を対象とした

政策・組合・後継者養成の諸体制

水野 博達 (大阪市立大学大学院創造都市研究科)

研究テーマ：地域課程の意味(福祉)再考とまちづくり

東裕 美子 (東洋大学大学院社会学研究科・院生)

研究テーマ：製造業における女性非正規労働者

##### ②退会

平沼 高

##### ※逝去

会員の 大野正和先生が7月に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

---

今後の日程：

1. 第22期第5回幹事会

日時：2010年9月4日（土）午後1時－3時

会場：専修大学神田校舎7号館764教室

※学会誌二誌体制のあり方についてなどが議題となります。

2. 第22期第3回研究例会（第22回大会のプレシンポジウム）

日時：2010年9月4日（土）午後3時（幹事会終了後）

会場：専修大学神田校舎7号館761教室

3. 第22回大会

日程：2010年10月15日（金）－17日（日）

会場：一橋大学国立キャンパス

---